

授業科目	教職概論 Introduction to Teaching Profession		担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位	
授業目的	(1) 栄養教諭の仕事を知り、専門へのあこがれや自覚をもつ。 (2) 学校教師というものに期待されてきた役割とそれをめぐる対立など現在の教職制度の概要を知り、社会的な責任のある素晴らしい専門職であることを学ぶ。 (3) 職業準備としてだけではない教職課程の意義、教師の仕事の内実と成立条件と職場の構造、学び続ける教師として育つことへの期待などを教育学の新しい接近法から学ぶ。			
到達目標	教師の仕事・地位などへの歴史的・社会的期待の存在と共に、その仕事そのもののおもしろさ、難しさ、子供とともに得られる喜びなどを知り、文明的に高度化する社会において学び続ける姿勢と方法を身につけた教師を目指す自覚を育む。			
関連科目	教育原理			
テキスト	講義時に資料を配布する。			
参考書	1. 姉崎・大野・近藤編「教職への道しるべ」(八千代出版) 2. 「小学校学習指導要領」(文部科学省) 3. 「中学校学習指導要領」(文部科学省)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 レポート：最終コマのあとにレポート課題を課す。 提出物：学校現場などでの見学の際に課す小レポート その他：講義中に設ける討論の参加度	
	試験			
	レポート	50		
	小テスト			
	提出物	20		
その他	30			
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問をすること			
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物やレポートに関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、教師の仕事の意義・内容や職場の特質について理解しやすいように授業を行う。			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1	教職概論の意義	栄養教諭とは何か、および本講概要	事前：教職について参考図書に目を通しておく(2時間) 事後：教職や栄養教諭の意義や役割について内容を整理し、振り返りシートにまとめる(2時間)	
2	教師とは何か	歴史の経験と世界の動向から	事前：前回に渡した教師に関する資料に目を通しておく(2時間) 事後：講義資料の復習を振り返りシートにまとめ、推薦図書の読書(2時間)	
3	教師の具体的な仕事について	教師の一日のタイムスケジュールや校務分掌等の業務全般について把握する	事前：教師の具体的な仕事について自分なりに考察する(2時間) 事後：教師の一日や校務分掌について振り返りシートにまとめる(2時間)	
4	現代の求められる教師像と現実の間で	教師の資質として求められていることと現実としての教師の困難について	事前：教師の生きがいと困難さについて自分なりに考察する(2時間) 事後：講義で気づいたこと、学んだことを自分の言葉でノートにまとめる(2時間)	
5	教員の資質形成デザインに見る教員の養成・採用・研修をめぐって	教員の資質形成施策の概要について把握する	事前：教師の資質について、関連する図書や資料を読んでおく(2時間) 事後：資質形成施策の概要で気づいたことを自分の言葉でノートのまとめる(2時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	教育のライフコースとライフステージについて	教師になっていくとはどういうことか、二つの視点から考える	事前：教育のライフコースとライフステージについて、関連する図書や資料を読む（2時間） 事後：二つの視点について自分の言葉でノートのまとめる（2時間）
7	学校における栄養教諭の位置と可能性	カリキュラムマネジメントの視点から	事前：栄養教諭について資料などでその特徴を把握する（2時間） 事後：これらの栄養教諭の可能性について自分の言葉でノートのまとめる（2時間）
8	栄養教諭の教育実践事例	食育に関わって知識獲得と態度形成を実現する教育実践について学ぶ	事前：栄養教諭について資料などでその特徴を把握する（2時間） 事後：課題ワークシートの完成、関連する参考図書に当たる（2時間）
9	保護者との連携の必要性和具体的な事例	学校・教師と保護者との関係づくりの事例について学ぶ	事前：教師と保護者との連携について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：課題ワークシートの完成、関連する参考図書に当たる（2時間）
10	教師の同僚性と協働の具体的な事例	チーム学校と同僚性の二つの視点から教師の協働について考える	事前：教師の協働について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：教師の協働について自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
11	地域や学校外の人材や諸機関との協働の具体的な事例	開かれた教育課程開発の具体的な事例について学ぶ	事前：開かれた教育課程について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：取り上げたテーマについて自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
12	学校での安全と安心を保障するための取り組み事例	復興教育や食育の事例から学ぶ	事前：食育の必要性について参考図書に目を通す（2時間） 事後：取り上げたテーマについて自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
13	教職の制度、及び教師の責任1	種類と制度、地位の保障と「公僕」性	事前：事前に配布した教職の制度資料に目を通す（2時間） 事後：教師の地位の保障と「公僕」性について、自分なりの言葉でノートにまとめる（2時間）
14	教職の制度、及び教師の責任2	創造性（自由）と責任、教化は避けられるか	事前：事前に配布した教職の制度資料に目を通す（2時間） 事後：教師の自由と責任について、課題ワークシートの完成（2時間）
15	まとめ	専門・技能の獲得と人間力形成への期待	事前：これまでに学んだ講義内容を振り返る（2時間） 事後：教師の技能の獲得と人間力形成について、課題ワークシートの完成（2時間）

授業科目	教育原理 Principles of Education	担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	近代教育思想の精髓を欧米・日本ともに紹介し、明治以降の教育課題と方法の模索を概観する。現代に至るまでの人間像と教育内容・学力観の変遷を示し、戦前・戦後の「新教育」の試みも取り上げる。学力低下問題、学校と地域・家庭との関わり、食育・環境教育等の必要を社会の動きと共に取り上げ、その理想の模索を伝える。これらを通して教育に可能なことを考えていく。折にふれて、意見交流の場を設ける。		
到達目標	教育に関する歴史や思想を概観し、教育学的な視点から人間の特質や人間らしさの本質を把握し、人間の発達を社会の発展との関連で捉え、教育の本質と目的を学修する。これからの教育の在り方を考えるために、歴史の中での教育、学校教育の意義、高学歴社会の現実と課題、社会生活の豊かさや教育の課題、国際化の時代と教育、現代社会と教師など、現代の教育活動が直面する諸問題を理解する。		
関連科目	教職概論 教育課程論		
テキスト	講義時に資料を配布する。		
参考書	1. よくわかる教育原理（ミネルヴァ書房） 2. 「小学校学習指導要領」（文部科学省） 3. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 提出物：毎回講義終了に提出される振り返りシート(20%) その他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度(30%) 試験：授業全体の理解について評価する(50%)
	試験	50	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
その他	30		
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問をすること		
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の教育活動が直面する諸問題について理解しやすいように授業を行う。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育の理念	現代に生きる教育思想：コメニウス、ペスタロッチ、デューイ他	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：現代に生きる教育思想について内容を整理し、振り返りシートにまとめる(2時間)
2	教育の歴史 1	日本の公教育の開始から戦前まで：国作り・学校作りと人格の独立の葛藤（「学制」と福沢諭吉、夏目漱石、内村鑑三、他）	事前：前時に配布した教育資料に目を通しておく(2時間) 事後：講義で取り上げた教育者の著作を紹介し、自分で図書に当たる(2時間)
3	教育の歴史 2	日本の「新教育」と戦後の教育課程：新しい人格像と地域学校作りの模索	事前：事前配布した教育資料に目を通す(2時間) 事後：取り上げた日本の「新教育」の成果と課題について自分の考察も交えてノートにまとめる(2時間)
4	日本の課題	学力 1- 学習指導要領と変遷	事前：学習指導要領の指定された箇所を事前に読んでおく(2時間) 事後：学習指導要領と変遷と特徴について自分の考察も交えてノートにまとめる(2時間)
5	グループ討議	戦後日本が目指した教育とは何であったか	事前：グループ学習の事前の確認とテーマへの準備(2時間) 事後：グループ討議で気づいたこと、学んだことを振り返りシートにまとめる(2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	日本の課題	学力 2- 学力低下問題、地域・家庭と学習意欲。各地の取り組み事例	事前：事前配布した学力関連資料に目を通す（2時間） 事後：学力低下問題と地域の取り組みについての新聞記事や参考図書で理解を深める（2時間）
7	日本の課題	総合的な教育主題－キャリア教育・食育・環境教育・グローバル教育、他	事前：事前配布した教育資料に目を通す（2時間） 事後：キャリア教育・食育・環境教育・グローバル教育から一つのテーマを取り上げてレポート(2時間)
8	まとめとグループ討議	教育の本質と教育の仕事を考える	事前：これまでで学んだ講義内容を資料等で振り返る（2時間） 事後：グループ討議の内容について考察を交えてまとめ、自分の見方を深める（2時間）

授業科目	教育制度論 System of Education	担当教員	明田川 知美
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公教育は国家的な事業であり、教育法・制度・政策のもとで実施されている。この講義では、まず現代日本の学校教育・社会教育制度、教育行財政の仕組みのうち、基本的な要素を取り上げて概観し、それらの制度等の意義を確認するとともに、あわせて課題についても検討する。また、学校教育に関わる課題に対して、現在行われている学校づくり、教育実践の取り組み事例を紹介し、学校改善や教育活動を進める際にもつべき視点や方法を考察する。		
到達目標	教育に関する法制、教育政策の形成過程、文部科学省・地方教育委員会など、教育行政の基本的な組織、および最近の教育政策（制度改革）について学び、これらの政策・制度の意義および現在生じている課題について理解する。また、今日の教育政策と教育改革、地域や学校レベルでの取り組みを知り、学校と教育をよりよくするために求められること、また学校と教職員、地域住民がなすべきこと、なしうることを具体的に構想する。		
関連科目			
テキスト	1.横井敏郎「教育行政学：子ども・若者の未来を拓く（第3版）」（八千代出版）		
参考書	1.勝野正章、藤本典裕他、「教育行政学-改訂新版」（学文社） 2.川口洋誉、中山弘之編著「未来を創る教育制度論」（北樹出版）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点
	試験		レポートは講義のまとめとして実施します。 提出物は講義内で課すフィードバックシートや感想文などです。 レポートの評価基準は、①設題に対して適切な資料を用い論じられているか ②自分の考察を説得力を持って論じられているか、です。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
その他			
履修上の留意事項	主体的な授業参加を求めます		
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課すフィードバックシートや感想シートについては、次回以降の講義にて応答する。レポートについては添削評価後にフィードバックと返却を行う。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	日本国憲法に定める教育を受ける権利と教育の機会、主権者とは。	教育権、学校設置者、義務教育制度などの基本事項について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
2	教育基本法 - 制定の理念と2006年改正	教育基本法の理念と、その内容をめぐる議論について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
3	教育機会の保障をめぐる現状と課題（不登校、夜間中学、外国人の子供を例に）	不登校、夜間中学や、フリースクール等の事例から教育を受ける権利とは何かを考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
4	文科省と教育委員会制度 - 設置理念と変遷、その必要性	国と地方、教育委員会制度の狙いや抱える課題について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
5	教育課程と学習指導要領、教師の自由と教科書制度（検定と採択）	学習指導要領に伴う教科書の検定の事例から運営のあり方について考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
6	教育財政（学校事務、授業料、私費負担、就学費と子どもの貧困の例）	教育と教育の機会に関わるお金の問題を考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
7	学校経営（教師の役割、学校安全と事故：いじめ・体罰ほかを事例に）	教師の専門性、子どもの自殺、いじめ、体罰など子どもの生命に関わる事故をいかに防ぐかを考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
8	教育制度の未来：希望を紡ぐ、教師と子ども、地域の人々との連携方策	これからの学校の在り方の動向について考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。

授業科目	教育課程論 Curriculum Development	担当教員	松田 剛史
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育課程編成の観点から主体的に考える時間とする。 2 自らが意見を持ち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。		
到達目標	1 教育課程の意義や効果的な教育課程編成のあり方について理解することができる。 2 カリキュラムマネジメントの実際と課題について考えることができる。		
関連科目	教育方法論		
テキスト	・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 9784779512674		
参考書	・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房 2018年 9784827815597		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	40	・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）30%：学習評価シート ・能動的かつ協動的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）30%：学習状況の観察
	レポート		
	小テスト		
	提出物	60	・各種学習成果（学修度）40%：考査や提出物等
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・Google form や Google スライドなどの G ツール、mentimeter、Miro といった ICT ツールを活用して授業を展開する。また、活動には zoom などのオンライン会議ツールを活用する場合がある。 		
課題に対するフィードバックの方法	・授業時間や学習支援システム、メールや SNS 等において随時伝達、共有する		
実務経験を活かした教育内容	・義務教育における教員経験を活かし、学校現場での実際を踏まえて指導にあたる		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育課程と自己をつなげる	自身の学校時代の経験と教育課程との接点について考える。	事前学習は特にないが、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
2	人間を計画通りに育てることはできるのか？	「教育目的」へいたる道のりとしての教育課程について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
3	人を計画的に育てることはどのように考えられてきたか？	学校における生活知をめぐる教育論争からカリキュラム論の誕生について認識を深める。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
4	何を学ぶのかをなぜ自由に決められるのか？	教育課程に関する法と制度について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
5	何が変わったのか？どうして変えるのか？	学習指導要領の変遷から、現代社会で求められる資質能力について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	なぜ「ゆとり教育」だったのか？	1998・1999年改定学習指導要領から、教育の変革点について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
7	「頭がいい」ってどういうこと？	教育課程設計の前提となるさまざまな資質・能力観について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
8	教師がカリキュラムの開発・編成を行うことは可能か？	学校を基盤としたカリキュラム開発について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

授業科目	教育方法論 Teaching Methods	担当教員	松田 剛史
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育方法の視点から主体的に考える時間とする。 2 自らが意見をもち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。		
到達目標	1 効果的な教育指導のあり方について理解することができる。 2 児童生徒に身につけさせたい資質能力について考えることができる。		
関連科目	教育課程論		
テキスト	・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 9784779512674		
参考書	特になし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	40	・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス(認知度)30%:学習評価シート ・能動的かつ協動的に学習活動へと取り組むパフォーマンス(参加度)30%:学習状況の観察 ・各種学習成果(学修度)40%:考査や提出物等
	レポート		
	小テスト		
	提出物	60	
その他			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・Google form や Google スライドなどの G ツール、mentimeter、Miro といった ICT ツールを活用して授業を展開する。また、活動には zoom などのオンライン会議ツールを活用する場合がある。 		
課題に対するフィードバックの方法	・授業時間や学習支援システム、メールや SNS 等において随時伝達、共有する		
実務経験を活かした教育内容	・義務教育における教員経験を活かし、学校現場での実際を踏まえて指導にあたる		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育方法とは何か	「教育」と「学習」の違いとその関係性について認識し、適切な指導方法のあり方について考える。	事前学習は特にないが、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
2	学校で用いられる「言葉」にルールはあるのか?	言語コードの規範と再生産が教育に及ぼす影響について、フランスの移民地区における事例をもとに考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
3	現場の教師はどうやって授業をつくるか?①	「本質的な問い」を軸にした授業づくりについて考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
4	現場の教師はどうやって授業をつくるか?②	教科指導を例に、授業において身につけたい資質能力について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
5	アクティブ・ラーニングに教師はいらない?	ヒドゥン・カリキュラムとしての教師の指導のあり方について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	授業の”外”が授業／学校を変える？	反転授業の発想と教科外領域への視点について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
7	「普通」のカリキュラムって何だろう？	オルタナティブ教育の視点から、教育方法について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
8	遊びで満たされた学びの舞台	主体性の育成とパフォーマンスな学びの視点から、教育方法について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

授業科目	道徳教育論 Moral Education	担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	道徳教育とは、人間が本来、人間としてよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動であり、学校教育の中核となるものである。本講義では、道徳・道徳教育の歴史や理論の研究をふまえ、学校現場における道徳教育の実際について学習することを通じ、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てる具体的な在り方について学ぶものとする。		
到達目標	1. 近代以降の欧米と日本の道徳・道徳教育に関する歴史と理論について理解する。 2. 現代日本の道徳教育の制度・しくみの現状と改革の課題について理解する。 3. 現代日本の学校における道徳教育の実践あるいは授業実践について考察し、道徳教育の教材・教科書の活用とともに新たな指導法の開発・修得を行う。		
関連科目	教育原理 生徒指導論 法と人権		
テキスト	「小学校学習指導要領特別の教科道徳編」(廣済堂あかつき) 「中学校学習指導要領特別の教科道徳編」(教育出版)		
参考書	毎回の授業で適宜関係資料等を配布する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験	50	試験：授業全体の理解について評価する (50%) 提出物：毎回講義終了に提出される振り返りシート(30%) その他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度(20%)
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
その他	20		
履修上の留意事項	配布された資料や論文を熟読すること		
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、道徳教育の教材や指導法について理解しやすいように授業を行う。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	道徳とは何か 道徳教育の現状	現代日本の道徳・道徳教育の現状と課題	事前：自身が経験してきた道徳教育についてまとめる (2時間) 事後：道徳教育の現状と課題について内容を整理し、レポートにまとめる (2時間)
2	道徳・道徳教育の歴史と理論	近代以降の欧米と日本における道徳・道徳教育の歴史と理論について学ぶ	事前：道徳教育の歴史と理論について事前配布の資料に目を通す (2時間) 事後：欧米と日本の道徳教育について自分の考察も交えてノートにまとめる (2時間)
3	道徳教育の指導計画、学校教育に占める位置	学校における道徳教育の位置並びに道徳教育の指導計画の実際について学ぶ	事前：事前配布していた参考資料に目を通しておく (2時間) 事後：学校における道徳教育の位置について、考察したことをレポートにまとめる (2時間)
4	道徳教育の指導計画、生徒指導と道徳教育の課題	道徳教育と学級・学年・全学年の生徒指導の課題との密接な関わりを学ぶ	事前：事前配布していた参考資料に目を通しておく (2時間) 事後：講義内容をまとめ、自分なりの意見も交えてノートにまとめる (2時間)
5	学習指導案の研究と作成1 (小学校における実践例と研究)	児童の発達段階・児童の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる	事前：指導案についての事前配布していた参考資料に目を通しておく (2時間) 事後：作成した学習指導案を振り返り、必要な修正を行い完成する (2時間)
6	学習指導案の研究と作成2 (中学校における実践例と研究)	生徒の発達段階・生徒の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる	事前：指導案についての事前配布していた参考資料に目を通しておく (2時間) 事後：作成した学習指導案を振り返り、必要な修正を行い完成する (2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	学習指導案の研究と作成3（道德教育の課題と指導法）	道德教育の課題にあわせて様々な道德教育指導法があることを学ぶ	事前：作成した二つの指導案の成果と課題を振り返る（2時間） 事後：様々な道德教育指導法と子どもの発達段階をテーマにレポートをまとめる（2時間）
8	まとめと道德教育の展望	改革をめざす現代の道德教育の内容・方法の課題と展望を明らかにする	事前：これまでに学んだ講義内容を振り返る（2時間） 事後：これからの道德教育の可能性について課題ワークシートの完成（2時間）

授業科目	特別活動・総合的学習指導論 Extra curricular activities and Integrated learning	担当教員	高橋 公平
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	小中学校の教育課程には各教科とともに学級活動・委員会活動といった「特別活動」、学校や地域、子どもの側に即して構想される「総合的な学習の時間」が位置付けられている。これらが教育課程上どのような役割をはたしているのか、またその授業の実際について理解することを目的とする。		
到達目標	この授業では様々な実践例を提示する。これらの実践例から教師の教育的意図、子どもの思考の文脈、成長について分析することを通して、学校の有機的な機能が理解できることを第一の目的とする。それを踏まえて受講者自身の子ども観・学校観を豊かにし、教育実習や学校支援ボランティア等で生かすことができるようになることを第二の目的とする。		
関連科目	自分が経験した特別活動・総合的な学習の時間の内容について		
テキスト	1.「小学校学習指導要領」（文部科学省） 2.「中学校学習指導要領」（文部科学省）その他、毎回、資料を配布する。 なお、「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」は、文部科学省のホームページから閲覧、ダウンロードすることができるので、必要に応じそちらを活用されたい。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		・毎回の授業後に 200 字以上のリフレクションシートを記述、提出してもらう。シートでは授業の概要の理解度と、受講者の洞察力（気づきや授業の本質に迫る質問）について評価する。 ・レポートは、授業で提示した実践例から一つ選び、その実践についての分析、検討を記述すること。実践をもとに自らの意見を展開できているかについて評価する。 ・その他、小中学校での授業づくりにつながる簡単な調査課題を 2 回課す。
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	40	
その他	20		
履修上の留意事項	欠席した場合は、資料を忘れずにもらうこと。なお授業の展開次第でテーマ・内容が変更になる場合があることを留意していただきたい。		
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題については、必要に応じてコメントを付して返却する。また、全体で確認・共有・議論したい内容であれば取り上げ、さらに授業内容の理解を深めていくことにつなげる。		
実務経験を活かした教育内容	担当教員は小学校教諭として 19 年勤めており、総合的な学習の時間や社会科における著書や実践論文を執筆している。実際の学校での授業実践を紹介することを講義の中心として進める。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	特別活動・総合的な学習とは何か。	ガイダンス 「学級びらき」と特別活動。 特別活動と総合的な学習とは何か。	資料を読んで復習すること。 自身の被学級活動経験の整理。
2	特別活動の意義と歴史 特別活動の始まり。	「生活指導」、「学校自治活動」と特別活動。「子ども熟議」	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
3	学級づくりと特別活動	学級会や班活動の意義と実践	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
4	キャリア教育と特別活動・総合的な学習	係活動や委員会活動や主権者教育とキャリア教育との関係	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
5	総合的な学習の理論的背景	学力と総合、総合的な学習の時間の歴史と現在	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
6	総合的な学習の実践例 1	小学校における総合的な学習の実践例 ～教科横断的学習と探究・表現～	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
7	総合的な学習の時間の実践例 2	地域の産業の実態と課題を追究する総合的学習～漁業・農業～	資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
8	総合的な学習の時間の未来	SDGs と総合的な学習 ～子どもの社会参画へとつながる学び～	これまでの講義のまとめ、レポート作成準備。

授業科目	生徒指導論 Student Life Guidance	担当教員	佐藤 憲夫
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方についての学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行い、実践的な生徒指導の視点を養うことを目的とする。		
到達目標	(到達目標) ①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。 (テーマ) 生徒指導の理論及び方法		
関連科目	2年(前期) 道德教育、2年(後期) 特活・総合指導論と密接に関連する。		
テキスト	「(新) 生徒指導提要」(文部科学省) その他、毎回関連する資料を配付する。「(新) 生徒指導提要」は、文部科学省のホームページで閲覧、ダウンロードすることができるので、必要に応じ活用すること。		
参考書	授業時に適宜紹介する		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 試験：試験は課題内容を理解したうえで、自らの考えを加え咀嚼し、意見を展開できているかという観点で評価する。 レポート：講義中に学習者自身の体験やコメント等の小レポートを課す。 最終試験は、授業終了後の定期試験期間前におこなう予定。
	試験	80	
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	教師を志す者としてのスタンスをしっかり持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。		
課題に対するフィードバックの方法	小レポートは翌週の授業時に解説し、あわせて質問・意見等の共有をおこなう。		
実務経験を活かした教育内容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。		
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	生徒指導とは何か(原理と位置づけ)	生徒指導の定義(教科・道德、特別活動等との関連) 教師の指導的役割 新旧生徒指導提要の内容について	事前：自分が受けてきた生徒指導について振り返り、小レポートにまとめ授業後提出。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)
2	生徒指導の方法と体制	生徒指導の目標、集団指導と個別指導、学級づくりの観点と方法、校内の各体制の分担	事前：生徒指導の目標についてについて整理する。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)
3	生徒指導の発達観指導観とその範囲	生徒指導の前提となる発達観と指導観、子供の人権と生徒指導、教師のかかわり方	事前：教科の授業中における生徒指導についてその視点を整理する。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)
4	道德・特活・総合的な学習の時間における生徒指導	道德教育と生徒指導の相互関係、総合的な学習の時間における生徒指導(探求学習、協的に学ぶ、自己の生き方を考える)、特別活動における生徒指導(すき間を埋める、進路指導)	事前：道德・総合・特活の目標についてまとめておく。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)
5	生徒指導と問題行動	問題行動とは、問題行動に対応する視点、校内における生徒指導体制	事前：自分の体験を踏まえながら、具体的問題行動をまとめる。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	いじめ問題と生徒指導	暴力やいじめの構造と解決法の模索、校内の協力と専門機関との連携、チームによる支援、S CとSSWの職務の対比	事前：課題をかかえる子ども、指導が難しい子どもとの対応について整理し まとめておく。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにま とめる。(1.7 時間)
7	課題をかかえる児童・ 生徒と生徒指導	不登校・いじめ、発達障害の基本的理解と対応、題行動の理解 と対応	事前：自分の体験を踏まえながら、具体 例をまとめておく。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートに まとめる。(1.7 時間)
8	教職員の体制と 生徒指導	喫煙、飲酒、薬物乱用、自殺の防止、虐待への対応、教員の連 携、地域との協力	事前：今まで授業で扱ってきたことにつ いて整理しておく。(2.5 時間) 事後：試験準備も兼ねながら、授業内容を 整理し、ノートにまとめる。(1.2 時間)

授業科目	特別支援教育概論 Introduction to special education	担当教員	松井 由紀夫
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	<p>幼児期から思春期（青年期前期）にかけて生ずる様々な障害について、発達の視点から、その態様と対処の仕方を学んでいく。また、特別な支援を要する子ども達の教育のあり方について児童・生徒の多様性を前提としたインクルーシブ教育を中心に学んでいく。</p> <p>心理的障害に対しては、カウンセリングマインドに基づく受容的働きかけを、また、発達障害に対しては主に行動療法的な働きかけの重要性を学び、特別な支援を要する幼児・児童ならびに生徒が通常学級の中で自己実現を目指す環境作りを考えていく。</p> <p>他にも、様々な障害のある子どもや、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの特性や支援の方法を学ぶ。その際、特別支援教育のシステム、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導などの教育の場、様々な教育課程、個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義を理解する。</p> <p>また、特別支援教育の最大の特徴である自立活動について、基礎的な知識を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1. 障害をもつ子どもに対する教育現場における支援のあり方について理解する。</p> <p>2. 臨床心理学・障害児心理学の基礎的な理論・技法を学ぶ。</p> <p>3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を学習する。</p> <p>4. 特別支援を要する子ども達の特徴を個性ととらえるインクルーシブ教育について学ぶ。</p>		
関連科目			
テキスト	使用しない。(適宜、プリントを配布する。)		
参考書	<p>1. 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領</p> <p>2. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編</p>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 到達目標に関するレポートにより評価する。
	試験		
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物 その他		
履修上の留意事項	事後学習として、前の講義との繋がりを確認しておくこと。		
課題に対するフィードバックの方法			
実務経験を活かした教育内容	特別支援学校教員としての実務経験をもとに実務に即した指導を行う		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育の場における児童生徒の生活上、学習上の困難とは	インクルーシブ教育へのイントロダクション	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
2	臨床心理の考え方	認知行動療法、来談者中心療法、精神分析	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
3	発達段階による心理社会的な課題	それに対処する学級体制の構築	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
4	発達障害の理解と対応	学習障害 (LD)・発達障害 (ADHD)・自閉症スペクトラム	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
5	知的障害・心身障害の理解	知的障害、肢体不自由、病弱、重症の心身障害のある子どもの特性と支援の方法の理解	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
6	視覚・聴覚障害の理解と支援	視覚障害、聴覚障害、その他の特別な教育的ニーズのある子どもの特性と支援の方法の理解	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
7	特別支援教育制度と実際の理解	特別支援教育の制度と教育課程、教育計画の理解	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること
8	自立活動の意義、実際と指導者の問題	自立活動の意義、目標、内容、方法、指導者に関する問題の理解	事後、配布プリントを読み、ノートを整理事ること

授業科目	教育心理学 Educational Psychology	担当教員	安念 保昌
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	ヒトは教えられて人になってゆき、教える側は相手をよく見て良いところを引き出していかねばならない。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解し、また幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。さらに、教授学習の方法、課程、動機付けなどを学修する。また、障害のある子どもの心身の発達と学習過程についても学修する。		
到達目標	発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し、各発達段階における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学修する。さらに、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎、主体的学習を支える動機付け・集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けを理解し、それを支える指導の基礎となる考え方を学修する。		
関連科目	心理学、生涯発達論、人間関係論		
テキスト	前もって配信される授業資料		
参考書	1. 杉森伸吉・松尾直博・上淵寿共(編著)「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」(培風館)2020 2. 中澤潤(編著)「よくわかる教育心理学」(ミネルヴァ書房)2008 3. 速水敏彦(編著)「教育と学びの心理学」(名古屋大学出版会)2013		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 毎回、教員採用試験過去問とともに復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化して提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。
	試験	40	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	60	
その他			
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。		
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育心理学とは何か	教育心理学の歴史と目指す方向	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
2	発達	発達の基本法則、発達段階と発達課題	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
3	認知発達	認知の発達、共同注意、心の理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
4	学習	古典的条件付け、オペラント条件付け、行動分析	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
5	記憶	古ワーキングメモリ、長期記憶、記憶方略	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
6	知能と学力	知能検査の歴史、知能指数、メタ認知	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	言語発達	聞く・話す・読み書きの発達	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	動機づけ	コンピテンス、外発的・内発的動機付け、学習性無力症	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
9	パーソナリティと社会性の発達	類型論、特性論、協調関係の形成	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
10	教授学習過程	授業形態、発見学習、授業分析	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
11	教育評価	評価の歪み、相対評価、絶対評価	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
12	教師	リーダーシップ、ピグマリオン効果、メンタルヘルス、レジリエンス	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
13	問題行動	いじめ、非行、非社会的行動、モンスターペアレント、ストレス	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
14	教育相談	生徒指導、来談者中心療法、認知行動療法	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
15	様々な障害と支援	A S D、L D、A D H Dの理解、特別支援教育	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	教育相談論 Educational Counseling	担当教員	川俣 智路
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	いじめ、不登校、児童虐待等、学習指導以外での学校・教師に課せられている課題にたいしていくための教育相談・カウンセリングの理論の基本的な理解と、必要な能力（方法）の土台の形成を行っていく。 教師だけで教育活動を行うことが困難な時代であるという認識のもと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関等、他の発達援助職・機関との連携についても理解を深めるような学びを行っていく。		
到達目標	○いじめ、不登校など、教育相談に関わる教育課題、教育相談の歴史・理論についての理解を深める。 ○教師として必要なカウンセリング・子ども理解の思想と方法を模擬体験も通して理解・形成する。 ○学習活動の中で分析・討論・発表等の教師として必要な能力の形成を行う。		
関連科目	心理学関連科目、特別支援教育関連科目の復習をしておくこと		
テキスト	特に使用せず、資料を配付します。		
参考書	橋本創一 他編著 『教職課程コアカリキュラム対応版 キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』 福村出版 2020		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		成績評価は毎回、授業終了時に行われる小テストの結果から判断します。小テストはデジタル媒体での受験、提出となりますのでネットに繋がる PC かタブレット PC、またはスマートフォンを持参してください。
	レポート		
	小テスト	100	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	簡単な体験ワークや、学びを深めるためのアクティビティを実施する予定です。こうしたペア、グループでの活動に不安がある場合には、初回の授業までに教員に申し出てください。授業の達成目標と評価基準が変わらない範囲で、配慮できる可能性があります。		
課題に対するフィードバックの方法	小テストの結果などは、翌週の冒頭に振り返り問題を実施しながら確認します。		
実務経験を活かした教育内容	スクールカウンセラーの経験を生かして、ケース対応やマネジメントの事例を取り扱います		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	教育相談とは何か	教育相談の役割について概観します	教育相談の役割とは何か自分のイメージを考えて受講してください。/ 参考資料を購読してください。
2	子どもの心と発達	子どもの心の発達、そしてその理解の方法の基礎について学びます	参考資料を読んでくること/ 次回の講義の課題に取り組むこと
3	聴き取ること～模擬カウンセリング～	話を聴く、その効果と方法について体験的に学びます	参考資料に目を通して受講すること/ 振り返りレポートの作成
4	相談を受けるとは？	相談を受けることの専門性について学びます	参考資料に目を通して受講すること/ 参考資料を読むこと
5	いじめについて考える	いじめ問題についてその概論を学ぶとともに、いじめに取り組む実践について学ぶ	講義の課題を読んでくること/ 振り返りレポートの作成
6	不登校について考える	不登校についてその概論を学ぶとともに、不登校に取り組む実践について学ぶ	講義の課題を読んでくること/ 参考資料を読むこと
7	特別支援教育について考える	特別支援教育の概要、主な発達障害について学びます	講義の課題を読んでくること/ 参考資料を読むこと
8	特別支援教育の実践	実際に学習場面においてどのように支援ができるかを体験的に学びます	講義の課題を読んでくること/ 関連する資料を読むこと
9	授業での学びを支援する	実際に学習場面の支援について分析し、実際的な方法について学びます	参考資料を読んでくること/ 振り返りレポートを書くこと
10	担任としての教育相談	教育相談の機能から見た担任教員の役割について学ぶ	参考資料を読んでくること/ 関連する内容の論文を読むこと
11	スクールカウンセラーの仕事とは	スクールカウンセラーの業務、教育相談との連携について学びます	参考資料を読んでくること/ 関連する内容の論文を読むこと

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	児童虐待とスクール・ソーシャルワーク	児童虐待の現状、対応方法をソーシャルワークの役割を学ぶ	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
13	事例検討の方法	教育相談のための事例検討の方法について学びます	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
14	やってみよう模擬事例検討	模擬事例を用いて、事例検討の方法について学びます	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
15	まとめ	教育相談の意義とその役割について総括的に理解する	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと

授業科目	栄養教育実習事前・事後指導 Guidance for Nutrition Teaching Practicum	担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	1単位
授業目的	事前指導：栄養教諭の実習の意義や目的を理解し、実習に臨む基本姿勢の構築を図る。実習に関する報告書等の作成方法をはじめとし、実習効果を高める技術を体得させる。事後指導：実習報告書を作成し、課題ならびに成果を抽出してまとめる。実習報告会を行い、プレゼンテーションができる能力の養成を図る。		
到達目標	事前指導：栄養教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で、意欲的に栄養教育実習に参加することができる。事後指導：栄養教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能、課題等を理解している。		
関連科目	栄養教育実習		
テキスト	適宜、資料等を配布する		
参考書	適宜、提示する		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：指導案・レポート等の提出物 (30%) ・その他：模擬授業・実習成果報告等のプレゼンテーション (60%) ・受講態度 (討論等への参加態度等) (10%)
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
その他	70		
履修上の留意事項	充実した栄養教育実習とするための事前学習・準備を周到に行って欲しい。実習後には、振り返りを十分に行い、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。		
課題に対するフィードバックの方法	栄養教育実習に向けての事前学習・準備での振り返りや助言、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら実習の意義や目的について理解しやすいように授業を行う。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (全担当教員)	栄養教育実習オリエンテーション	栄養教育実習の意義や目的、マナー、教育実習に必要な知識の確認・整理等	事前：既習の関連科目の復習をする (1時間) 事後：教育実習の意義や目的について自分の言葉でノートにまとめる (1時間)
2 (全担当教員)	学校現場の実態について	学校現場の状況や実習に向けて取り組むべきことなど	事前：実習に向けて学びたい事項 (質問事項) の整理する (1時間) 事後：実習に向けて取り組むべきことなどを整理する (1時間)
3 (全担当教員)	栄養教育実習に向けた模擬指導 (給食前指導) ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成	事前：模擬指導 (給食前指導) のテーマを検討する (1時間) 事後：指導案作成方法の振り返りをする (1時間)
4 (全担当教員)	給食前指導の準備Ⅱ	教育教材の作成	事前：教材作成を参考図書などで準備する (1時間) 事後：学んだ教育教材の作成のポイントを自分で振り返りまとめる (1時間)
5 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：討論に向けての内容、資料の準備をする (1時間) 事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する (1時間)
6 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：討論に向けての内容、資料の準備をする (1時間) 事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する (1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (全担当教員)	討論 給食前指導の振り返り・研究授業(45分間食指導)ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成	事前：研究授業のテーマについて構想をまとめる(1時間) 事後：指導案作成方法の振り返りをする(1時間)
8 (全担当教員)	研究授業の準備Ⅱ	教材作成準備・栄養教育の事前練習	事前：研究授業の内容、指導展開を構想する(1時間) 事後：栄養教育の事前練習を整理する(1時間)
9 (全担当教員)	模擬研究授業(45分間食指導)と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う(1時間) 事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる(1時間)
10 (全担当教員)	模擬研究授業(45分間食指導)と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う(1時間) 事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる(1時間)
11 (全担当教員)	栄養教育実習の振り返り、報告(報告書・発表会)準備	教育実習の振り返り、履修カルテの記入、報告書・報告会準備	事前：栄養教育実習を振り返って整理する(1時間) 事後：報告書・報告会準備に向けて必要な資料準備をする(1時間)
12 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅰ	実習記録(報告書)の作成	事前：実習報告書作成に向けて資料を用意する(1時間) 事後：実習報告書作成の加除修正を行う(1時間)
13 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅱ	実習記録(報告書)の作成(完成)	事前：実習報告書作成の進捗を確認し、必要な資料を準備する(1時間) 事後：完成した実習報告書に目を通し、自分の課題を明確化する(1時間)
14 (全担当教員)	実習成果報告会準備	実習成果の発表に向けてプレゼンテーション資料の作成、発表準備	事前：実習成果報告会に向けて必要な諸準備をする(1時間) 事後：実習成果報告会のポイントについて確認する(1時間)
15 (全担当教員)	実習報告会	栄養教育実習の成果を発表する。発表を参考に、自身の課題や課題解決の方向性についてまとめる	事前：実習成果報告会に向けて最終的な準備をする(1時間) 事後：報告会を通じて自身の課題や課題解決の方向性について整理する(1時間)

授業科目	栄養教育実習 Nutrition Teaching Practicum	担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	栄養教諭として、児童・生徒の健やかな成長と長い生涯にわたる健康維持の基礎づくりのために、適正な食習慣ならびに自己管理ができるように、学校現場（小学校）において、実習を行う。講義や演習を通して学んだ知識や技術を基礎として、児童・生徒に対し給食を教材とした栄養教育・食育を実践する。		
実習目標	1) 児童との関わりを通して、児童の実態や課題を把握することができる。 2) 栄養教諭の心構えや態度を学修し、栄養教諭に求められる役割を理解する。 3) 学校給食管理の実際を把握し、生きた教材としての給食と食に関する指導の一体化について理解する。		
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、教職実践演習、給食経営管理論実習Ⅲ		
実習内容	・学校現場において、観察・参加・実習を通じて、学校教育（学校給食経営管理を含む）の実際を学ぶ。 ・給食時や教科・特別活動において、食に関する指導（指導案の作成、研究授業の実施など）を体験する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：実習ノート・自主課題等の記録（40%） ・実習報告書（30%） ・その他：実習施設指導者の評価（30%）
	試験		
	レポート		
	小テスト		
	提出物	70	
その他	30		
履修上の留意事項	1. 本実習は、「栄養教育実習事前・事後指導」において、実習前に必要なオリエンテーションや事前準備等を行い、実習後に成果発表等を行う。 2. 教職関連科目で学修したことが基礎となるため、事前にしっかり振り返りしておくこと。		
課題に対するフィードバックの方法	実習成果報告会のポイントについて確認することや、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容			
実習方法	小学校で1週間（5日間：45時間）。 日程や具体的内容等は「栄養教育実習事前・事後指導」のオリエンテーションで説明する。		
実習施設	札幌市内の小学校（予定）		

授業科目	教職実践演習 Seminar on Teaching Practice		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	2単位
授業目的	これまでの教職課程で学んだ理論と実践の有機的な統合を図るため、講義により学びを深めるほか事例研究（討論）、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を行う。			
到達目標	1) 教員としての使命感、責任感、社会性や対人関係能力について理解する。 2) 栄養教諭としての指導力等について自ら確認し、課題探究とその解決策に向けて取り組む。			
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習			
テキスト	適宜、資料等の配布し、教科書等を貸与する			
参考書	適宜、提示する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：指導案・レポート等の提出物（30%） ・その他：討議、演習、実践等への参加態度（30%）、 ・プレゼンテーション（40%）	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30		
その他	70			
履修上の留意事項	栄養教諭課程の総まとめの演習と心得、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。			
課題に対するフィードバックの方法	事例研究（討論）での観点整理を行ったり、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を客観視する助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、教員としての使命感、責任感、社会性について理解しやすく授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習	
1 (全担当教員)	ガイダンス (科目の趣旨・ねらい)	討論「履修カルテ」を活用したこれまでの学修の振り返り	事前：これまでの履修カルテの振り返り (1時間)。事後：履修カルテの記入と記載内容の振り返り (1時間)	
2 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	教科指導の分析・グループ討論	事前：栄養教育実習での学びをまとめる (1時間)。事後：栄養教育実習での学びの振り返り (1時間)	
3 (全担当教員)	発表・討論	「第2回グループ討議」発表と全体討論	事前：栄養教育実習での学びの振り返り (1時間) 事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り (1時間)	
4 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	生徒指導の分析・グループ討論	事前：前回の討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り (1時間) 事後： (1時間) 栄養教育実習での学びの振り返り (1時間)	
5 (全担当教員)	発表・討論	「第4回グループ討議」発表と全体討論	事前：前回の事例研究の学びの振り返り (1時間) 事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り (1時間)	
6 (全担当教員)	講義 学校現場の実際 I	学校栄養教諭による地域連携の実際	事前：講師から学びたい事項 (質問事項) の整理 (1時間) 事後：地域連携の実際について自分なりにまとめる (1時間)	
7 (全担当教員)	討論	「第6回講義」からの学び	事前：第6回講義での学びの振り返り (1時間) 事後：討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる (1時間)	
8 (全担当教員)	演習「年間指導計画」作成～立案に向けた情報収集・グループ討論	グループ討論による年間指導計画の作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す (1時間) 事後：「年間指導計画」作成方法の振り返り (1時間)	
9 (全担当教員)	演習「年間指導計画」立案 (完成) と教材研究	グループ討論による年間指導計画の作成と教材作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す (1時間) 事後：「年間指導計画」と「教材作成」方法の振り返り (1時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (全担当 教員)	演習 教材作成(個人作業)	栄養教育(発表用)に必要な教材の作成	事前:「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す(1時間) 事後:「教材作成方法」の振り返り(1時間)
11 (全担当 教員)	演習 教材作成・発表(グループ内での発表・修正作業)	栄養教育(発表用)に必要な教材の作成と討論による修正	事前:「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す(1時間) 事後:「教材作成方法」の振り返り(1時間)
12 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育の計画・指導案作成	作成した教材を活用した栄養教育計画と、指導案の作成	事前:「栄養教育計画」について事前に参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 栄養教育の手法と、指導案作成方法の振り返り(1時間)
13 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前: 栄養教育に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: グループ内発表を簡潔にまとめる(1時間)
14 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表(1グループの発表)と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前: 栄養教育に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する(1時間)
15 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表(2グループの発表)と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前: 栄養教育に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する(1時間)
16 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表(3グループの発表)と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前: 栄養教育に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する(1時間)
17 (全担当 教員)	討論 栄養教育の模擬発表の振り返り・改善案について	栄養教育の発表内容全体を振り返り・改善方法等について討論	事前: 栄養教育に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 改善方法等について討論を通じて学んだことを自分なりに整理する(1時間)
18 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅰ(教材の作成・変更等)	栄養教育の実践に向け教材の作成・変更・練習等	事前: 栄養教育の実践に向け教材に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 教材の作成・変更・練習等について気付いたことを整理する(1時間)
19 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅱ(グループ内練習等)	グループ内での栄養教育の練習等	事前: グループ内での栄養教育の練習に向けた準備と確認(1時間) 事後: 栄養教育の実践に向けた準備(1時間)
20 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践(1グループ)	1グループは栄養教育の実践/他グループは発表の観察	事前: グループ単位で実践に向けた準備と確認(1時間) 事後: 実践と観察を通じて学んだことの振り返り(1時間)
21 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践(2グループ)	2グループは栄養教育の実践/他グループは発表の観察	事前: グループ単位で実践に向けた準備と確認(1時間) 事後: 実践と観察を通じて学んだことの振り返り(1時間)
22 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践(3グループ)	3グループは栄養教育の実践/他グループは発表の観察	事前: グループ単位で実践に向けた準備と確認(1時間) 事後: 実践と観察を通じて学んだことの振り返り(1時間)
23 (全担当 教員)	討論 栄養教育実践の評価・改善について	全グループの栄養教育実践結果の報告と改善点について討論	事前: グループ単位で実践のまとめを確認(1時間) 事後: 討議の内容を自分なりに整理する(1時間)
24 (全担当 教員)	講義 「学校現場の実際Ⅱ(特別支援学校で栄養教諭の役割)」	学校栄養教諭による特別支援学校における業務の実際	事前: 講師から学びたい事項(質問事項)の整理(1時間) 事後: 特別支援学校における業務の実際について自分なりにまとめる(1時間)
25 (全担当 教員)	討論 「第24回の講義からの学び」	「第24回の講義」からの学び	事前: 第24回講義での学びの振り返り(1時間) 事後: 討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる(1時間)
26 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の計画・指導案作成	グループ討論による指導計画、指導案の作成	事前: 特別支援学校に関する参考書籍に目を通す(1時間) 事後: 指導計画、指導案の作成のポイントを整理する(1時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
27 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前：グループ内発表の準備と確認（1時間）事後：栄養教育内容の発表と修正についてまとめる（1時間）
28 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の模擬発表	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：模擬発表に向けて事前準備と確認（1時間）事後：栄養教育の模擬発表で学んだことを自分なりにまとめる（1時間）
29 (全担当 教員)	討論 特別支援学校における栄養教育のあり方について	現場の栄養教諭を交えて、栄養教育のあり方について討論する	事前：第 24 回講義での学びの振り返り（1時間）事後：現場の栄養教諭を交えての討論で気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
30 (全担当 教員)	討論 「教職実践演習の振り返り」、履修カルテの記入・自己評価	履修カルテを活用して、自己の学び（達成状況）や課題を振り返る	事前：これまでの履修カルテの振り返り（1時間）。事後：履修カルテの記入、自己評価（1時間）